

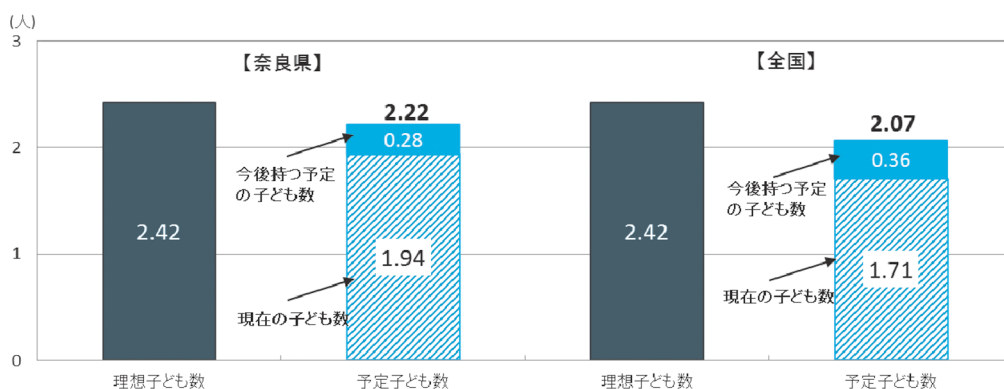
## (2)理想の子ども数等

奈良県の夫婦(妻が50歳未満)が希望する子ども数(理想の子ども数)の平均は、全国と同じ2.42人となっています。

現在の子ども数と今後持つ予定の子ども数の合計(予定の子ども数)の平均は、奈良県は2.22人、全国は2.07人で、奈良県の方が0.15人多くなっています。

また、予定の子ども数が理想の子ども数より少ない理由は、奈良県では「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が56.1%と最も多く、次に「高年齢で生むのがいやだから」が35.6%などとなっています。

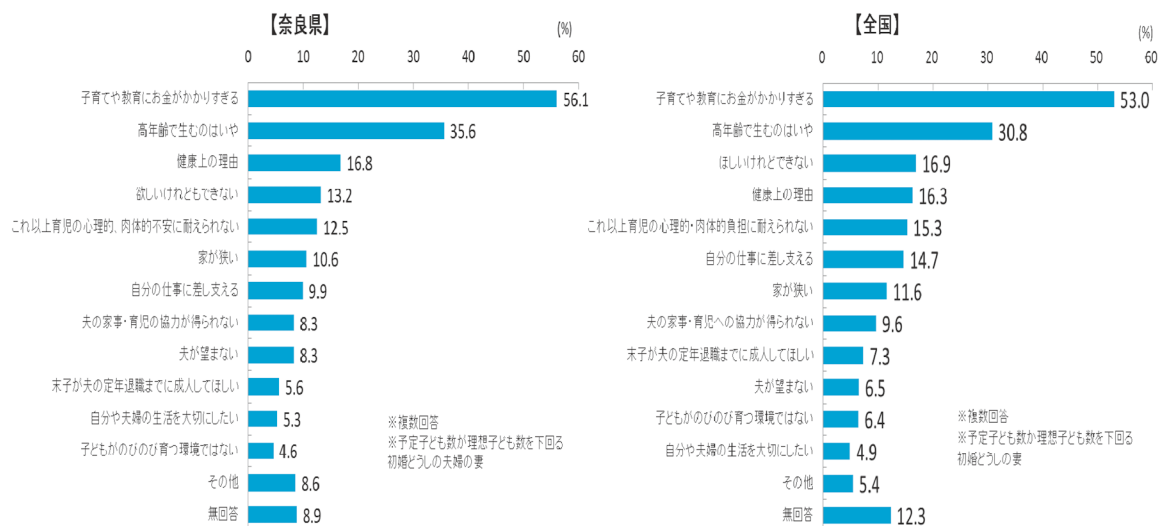
### ■理想の子ども数と予定の子ども数(奈良県・全国)



※妻が50歳未満の初婚どうしの夫婦(無回答・不詳を除く)  
「予定子ども数」は、「現在の子ども数」と「今後持つ予定の子ども数」を合わせた数

【奈良県】H25奈良県子育て実態調査(子育て支援課)  
【全国】第14回(H22)出生動向基本調査(国立社会保障・人口問題研究所)

### ■理想の子ども数より予定の子ども数が少ない理由(奈良県・全国)



H25奈良県子育て実態調査(子育て支援課)

第14回(H22)出生動向基本調査(国立社会保障・人口問題研究所)

#### 課題

予定の子ども数が理想の子ども数に達していないことから、子どもを持ちたいと望む人が、希望どおり子どもを生み育てることができるよう、「子育てや教育の費用」や「高年齢での出産」などの問題を解決していく必要があります。

### (3) 就労状況

#### ① 男性の就労状況

奈良県の20歳から29歳の男性有業者の割合は、全国に比べて低い水準です。また、非正規雇用の割合は、全国と比べて高くなっています。

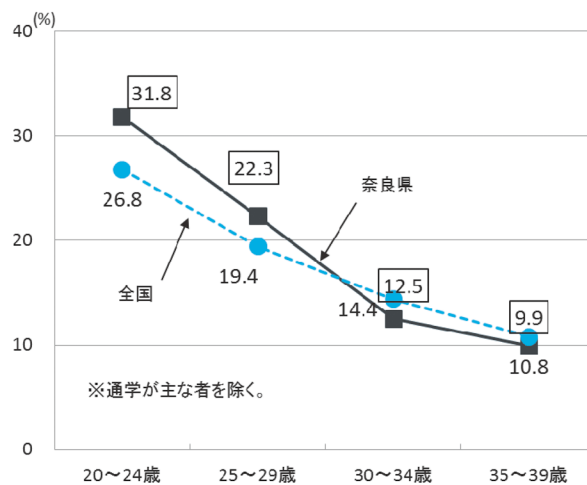
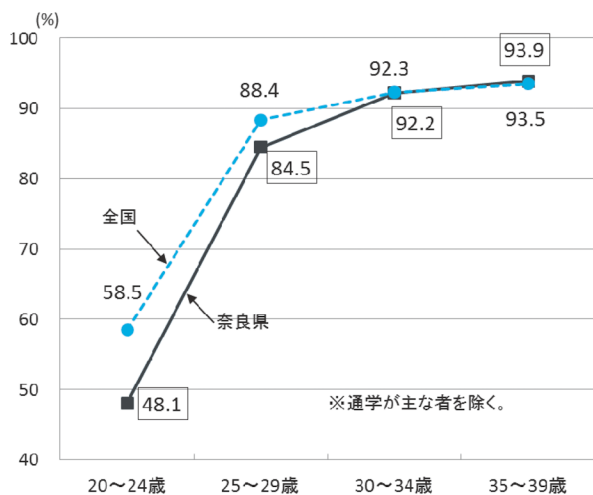
男性の未婚者の割合は、奈良県・全国とも正規職員より非正規職員の方が高くなっています。

特に、奈良県の30歳から34歳の未婚者の割合は、正規職員が32%に対し、非正規職員は75%であり、差が顕著になっています。また、年齢が高くなるほど、その差は大きくなっています。

■ 男性有業者の割合(奈良県・全国)

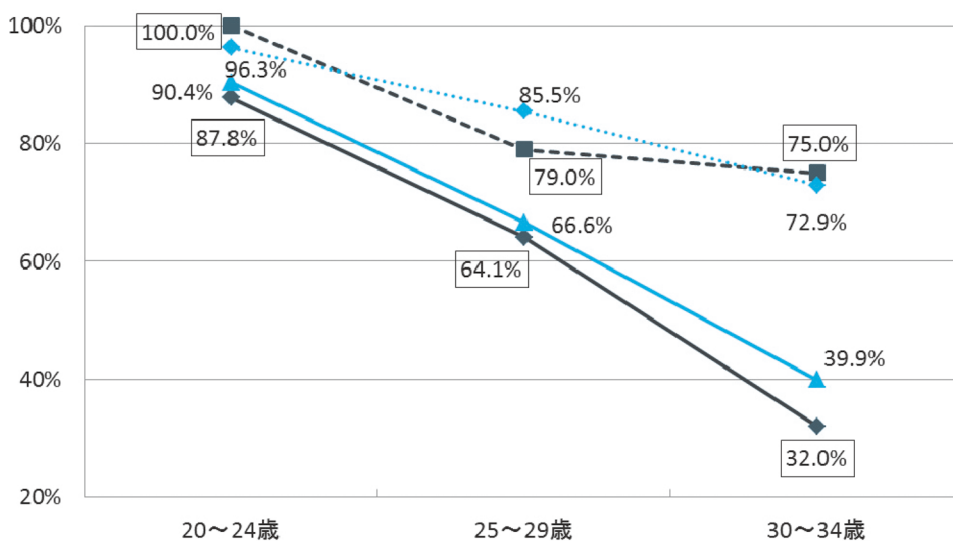
■ 男性有業者の非正規職員の割合

(奈良県・全国)



H24就業構造基本調査(総務省統計局)

■ 雇用形態別男性有業者の未婚者の割合(奈良県・全国)



H24就業構造基本調査(総務省統計局)

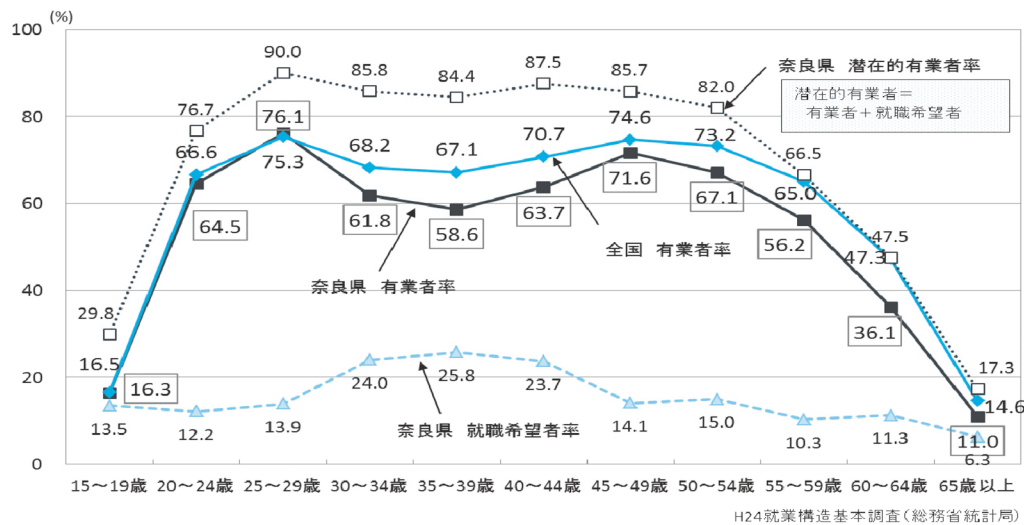
②女性の就労状況

年齢別に奈良県の女性の就労状況をみると、25歳から29歳で76.1%の有業率が、30歳から34歳になると61.8%となり、女性有業者の約2割が無職となっています。全国も同じような傾向がみられますが、無職になる割合は有業者の約1割にとどまっています。

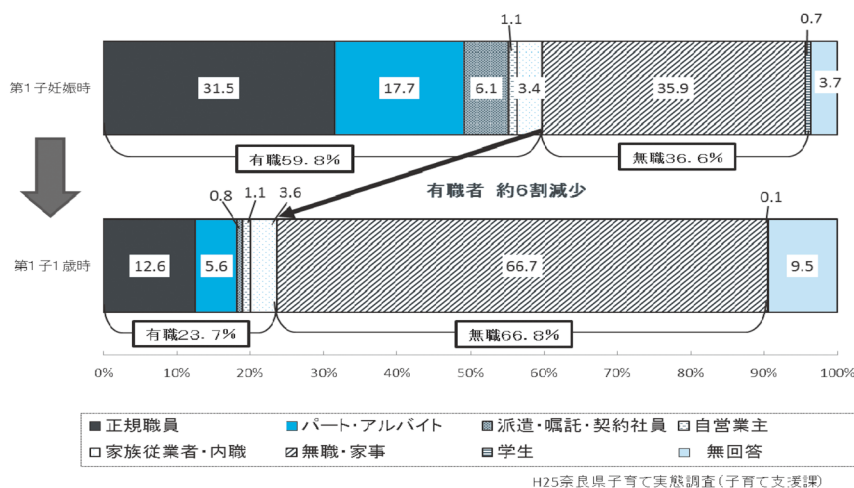
無業者の就職希望者の割合は、子育て期である30歳から44歳で高く、特に35歳から39歳で25.8%となっています。有業者と就職希望者を合わせた潜在的有業者の割合は、子育て期であっても極端な落ち込みはみられません。

また、第1子出産前後について、奈良県の妻の就労状況をみると、働く妻の約6割が、第1子出産を機に退職しています。

■年齢別女性の有業率等(奈良県)



■第1子出産前後の妻の就労状況(奈良県)



課題

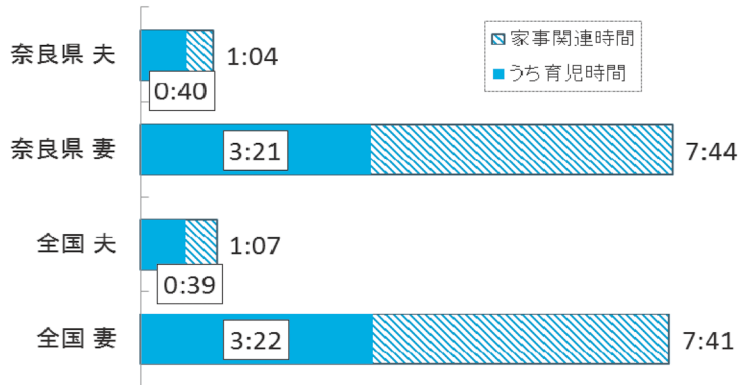
男性非正規職員の未婚者割合は高いため、安定した収入を得ること、また、多くの女性が妊娠・出産を機に退職していることなどから、子育てしながら希望どおり働くことができるよう、若者と女性のごとの安定に向けた取り組みが必要です。

#### (4) 男性の子育て・家事への参加

6歳未満の子どもを持つ夫婦の育児を含む家事関連時間をみると、奈良県・全国ともに夫が家事・育児に費やす時間は非常に短くなっています。

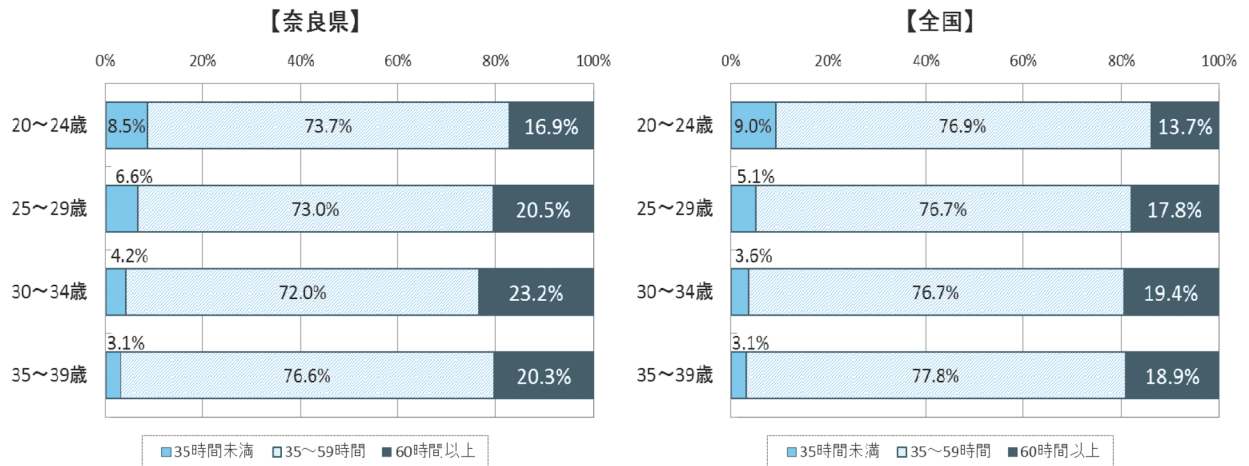
また、奈良県の25歳から39歳の男性の約20%（おおむね5人に1人）が週60時間以上就業しており、子育て期の男性の就業時間が長くなっています。

#### ■6歳未満の子どもを持つ夫婦の育児時間(奈良県・全国)



H23社会生活基本調査(総務省統計局)

#### ■男性有業者の週間就業時間の割合(奈良県・全国)

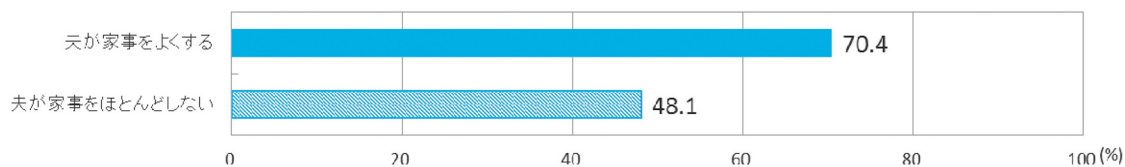


※年間就業日数200日以上の男性有業者  
+24就業構造基本調査(総務省統計局)

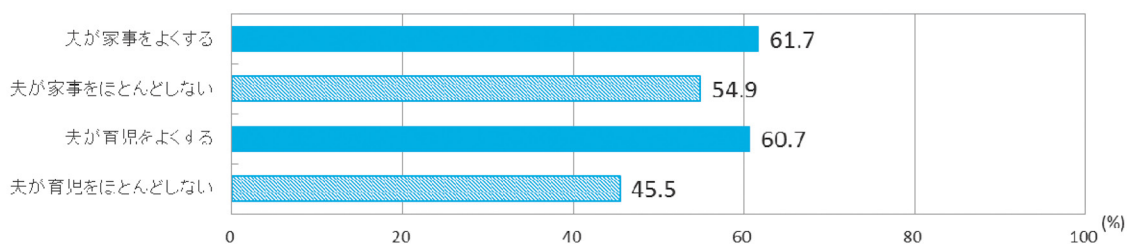
## <コラム②> 夫の家事・育児の遂行と今後子どもを持つ予定の有無

夫の家事・育児の遂行頻度と、今後子どもを持つ予定の有無との関連を調べた全国調査結果をみると、夫が家事や育児をよくする方が、今後、妻が子どもを持つと考える割合が高くなっています。

### 【子どもを持たない妻が今後子どもを持つ予定がある割合】



### 【子どもを1人持つ妻が今後子どもを持つ予定がある割合】



※40歳未満の妻について集計  
第5回(H25)全国家庭動向調査(国立社会保障・人口問題研究所)

### 課題

子育て期の男性の就業時間が長いことが、夫の家事・育児への参加を難しくしており、また、このことが、妻が希望する子ども数にも影響を与えていると考えられます。

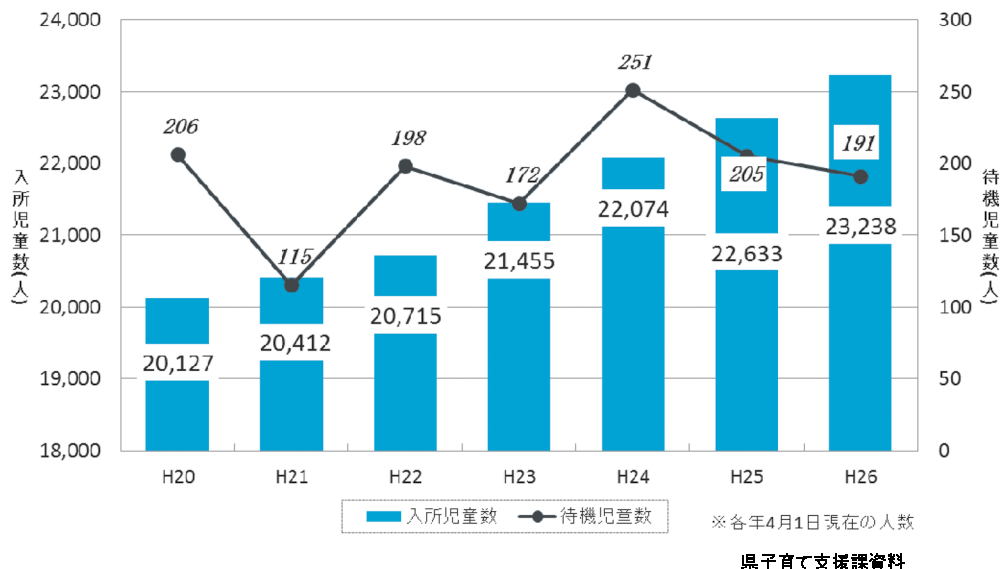
このことから、男性の働き方を見直し、男女ともに仕事と家庭・子育てのバランスがとれるよう、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みが必要です。

## (5) 保育及び放課後児童対策

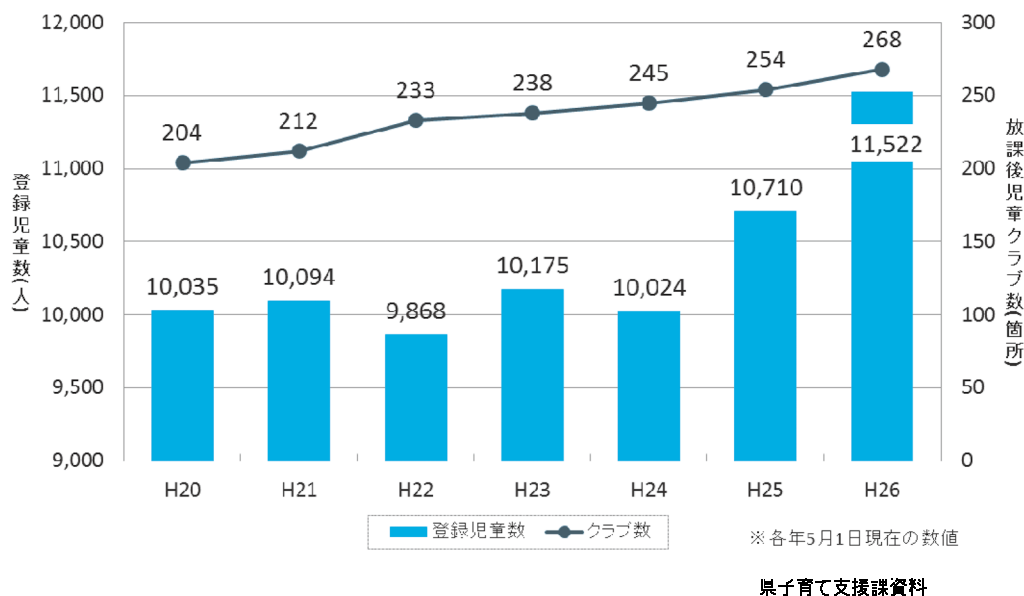
保育所入所児童数は増加していますが、待機児童数は、毎年4月1日時点で約 200 人前後で推移しています。

また、共働き家庭などの小学生が利用する放課後児童クラブの箇所数及び登録児童数も増加傾向であり、平成 26 年5月1日現在で 268 箇所、登録児童数は 11,522 人となっています。

### ■保育所入所児童数及び待機児童数



### ■放課後児童クラブ数及び登録児童数



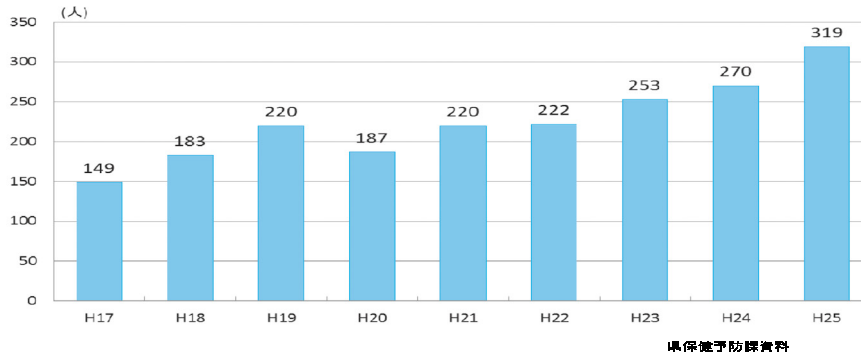
#### 課題

子どもの健やかな育ちと保護者の仕事と子育ての両立を支援するため、地域の実情や多様な子育て家庭のニーズに応じ、保育や放課後児童対策等の子育て支援サービスを充実することが必要です。

## (6)不妊治療

女性が新規に不妊治療助成を受ける件数は、平成20年度以降年々増加しています。

### ■不妊治療新規助成件数の推移



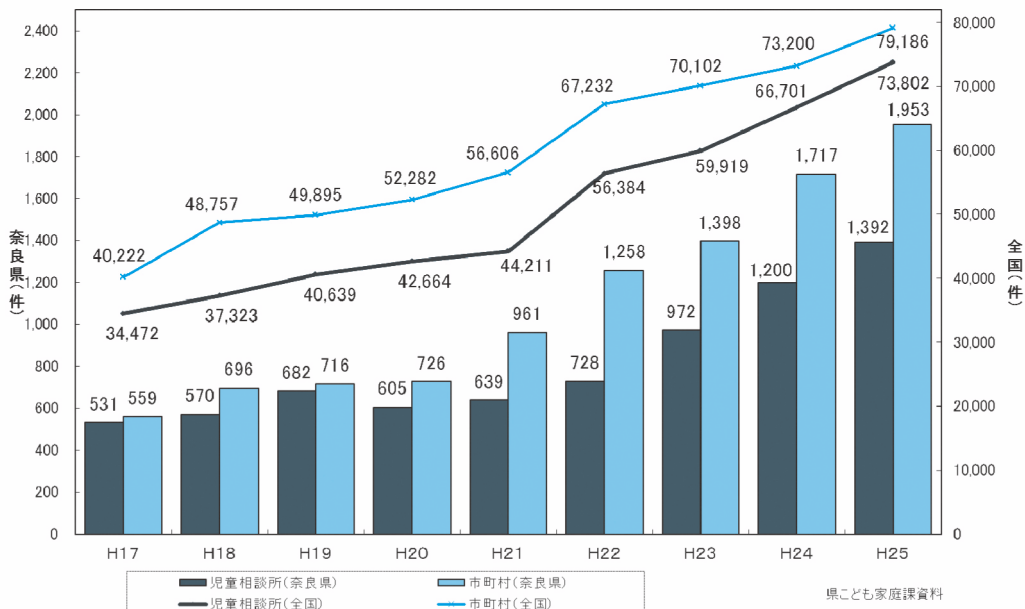
#### 課題

新規の不妊治療件数は年々増加傾向にあります。男性も含め治療を希望する方が、妊娠・出産に伴うリスクが少なく、出産に至る可能性が高い時期に治療ができるよう、さらに周知を図ることが必要です。また、不妊治療の増加に伴い、専門的な相談ニーズが高まっていることに対し、相談体制の充実も必要です。

## (7)児童虐待対応

奈良県のこども家庭相談センター(児童相談所)及び市町村における児童虐待対応件数は、全国と同様に年々増加しています。

### ■児童虐待対応件数の推移(奈良県・全国)



#### 課題

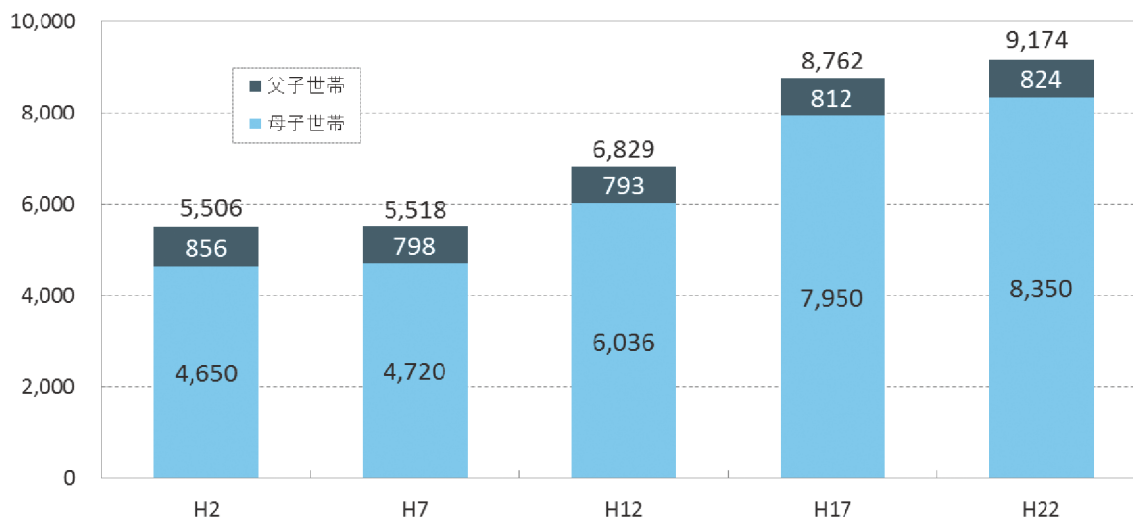
奈良県児童虐待防止アクションプランに基づき、児童虐待の予防、早期発見、迅速かつ適切な対応、さらには虐待を受けた子どものケアと家庭への支援等について、これまで以上に県、市町村、関係機関の連携による取り組みが必要です。

## (8)ひとり親世帯

国勢調査の結果から、奈良県の母子・父子世帯数の推移をみると、平成22年には9,174世帯となっており、10年前の平成12年から2,345世帯増加しています。

特に、母子世帯数は、この間で約1.4倍に増加しています。

### ■母子・父子世帯数の推移



※未婚、死別又は離別の女親(男親)と、その未婚の20歳未満の子供のみから成る一般世帯(他の世帯員がいないもの)

国勢調査(総務省統計局)

※他の世帯員がいる世帯を含む場合は、

母子世帯 11,787世帯 父子世帯 1,900世帯(平成22年国勢調査)

#### 課題

ひとり親家庭は、子育てと生計の担い手という役割を一人で担っており、雇用・経済状況などについて、厳しい環境に置かれています。このため、奈良県ひとり親家庭等の自立支援プランに基づき、相談・情報提供機能の充実、就業支援や子育て・生活支援施策の推進が必要です。